

伯夷傳と我が國體士風（目次タイトル：伯夷叔齊の 我國體士風に及ぼせる影響）

著者	中山 久四郎
雑誌名	漢文學會々報
巻	1
ページ	38-40
発行年	1933-03-10
URL	http://doi.org/10.15068/00146151

伯夷傳と我が國體士風

中山久四郎

三八

伯夷の事蹟は、支那に於て道義史上重大であるのみならず、我が國體士風に影響する所が非常に多い。それを述べたいと思ふ。伯夷、仲子、叔齊は三人の兄弟である。父は仲子に愛情深き爲、父の志を遂げしめんとして、伯夷と叔齊は家を出て、西に至り、周の武王の出陣に會ふ。二人は武王に兵を中止する様諫めたけれど、武王は聽かず、却つて二人を殺さうとしたが、太公望は義人ならんと云ふて之を許した。武王が終に天下を定むるに至り、周の粟を食まず、首陽山に通れ薇を食し、終に餓死した事が、史記伯夷傳に見えてゐる。伯夷の事は論語に四ヶ所、孟子に十ヶ所あつて皆賞してゐる。又楚辭の離騷第九章橘章には「行比伯夷、置以爲像兮」とある。陶淵明も伯夷によつて自らの節をみがき唐の韓退之には伯夷頌がある。其

他支那歴代の忠臣は伯夷によつて忠義をみがいてゐる。問題は我國の方である。我國の歴史特に國體に伯夷の精神が關係してゐる。第一に稚郎子の讓位せられたのも、論語の伯夷の文によるものと安積良齋は評論してゐる。又和氣清麿の神託も、路豊永か興へた「神託若し道鏡を天位とせば我は伯夷叔齊とならんと云ふ」言が多分に影響してゐるものと思ふ。之に對して安積澹泊は和氣清麻呂論を作つてゐる。

又大沼枕山の詩に「丈夫何敢畏驕髡。況得良朋激厲言。一任朝廷呼傲穢。能令清氣滿乾坤」といひ、又大槻盤溪の詩に「肯教妖鏡穢我名。擎曰精忠神亦驚。自有巖師路豊永。高風早學伯夷清。」とある。降つて水戸義公が大日本史編纂の念を起されたのも、史記伯夷列傳を讀まれた爲であること

が序文に明かである。又義公は今の砲兵工廠の屋敷の後樂園中に得仁堂を作つて伯夷を祀られた。その堂の名は論語述而篇の「求仁得仁」の語をとつたものである。又熊澤蕃山は「心學文集」巻上に於て梅花を以て伯夷にたとへて和歌を残した。又室鳩巢は當時議論のあつた赤穂四十七士に對し義士と命名し、伯夷は仁を求めて仁を得、義士は生を捨て、義を得たと云ふてゐる。又三浦梅園の「敢語」と云ふ書の君臣の一篇は、殆んどその精神は伯夷を述べ、我が國に於て實現してゐる事を述べて、その結論の所に「噫微斯人。吾夫獸焉」と云ふて伯夷を賞してゐる。又吉田松陰は「講孟割記」及「照顔集」の詩に於て、伯夷の事を述べ尊皇勤王の事を述べてゐる所が數ヶ條ある。又座田維只の書「國基」も十中の八九伯夷の事を述べ其の精神は全く我國に行はれてゐることを述べてゐる。乃木將軍は「國基」を讀まれ大いに感じ、自費を以て「國基」を出版し、知人、名士、諸學校、圖書館等に配布された。又福澤諭吉先生の遺

墨中に「伯夷其心柳下惠其行」とある。三田學風に伯夷の精神が間接に傳はつてゐると云ふても過言ではない。堅い方面に於ては、關係する所がこの様に多いが、又軟かい方面にも意外に伯夷を引いてゐる。戯曲小説で「日本賢女鑑」十段目に「伯夷叔齊飢えて……」とあり「太閤記」妙心寺之段に「伯夷叔齊出で、行く……」とあり「妹背山」饑七上使之段には「首陽山の昔……」とあり「大内裏大伴眞鳥」三段目には「首陽山の伯夷叔齊」とある。太閤記と妹背山とはよく語られもし踊られもしてゐる。尙瀧澤馬琴の八犬傳も伯夷を引いて忠義を述べてゐる、其他川柳や發句にもある。變つた方面で云ふと、後花園天皇の寛正二年、大水風害で、天下凶年にも拘はらず、足利義政が贅澤三昧に耽りたるを以て、天皇は次の一詩を以て諷せられた。「殘民爭採首陽薇。處々閉爐鎖竹扉。詩興吟酸春二月。滿城紅綠爲誰肥。」と。尙材料が多少あるが、時間の都合上割愛し、只一書を紹介して置かう。即ちこの「弔夷集」(寶曆

二年序)である。之は編輯者も、詩の作者等も一切不明であるが、獨善的人々が伯夷を弔ふ會をした集であるらしい。折角かゝるものを得た以上

出版したいと思うてゐるが、本日の講演を縁として御紹介する次第である。(文責在記者)

漢文教育に關する諸問題

内 野 台 嶺

こゝに漢文教育に關して、私の平素考へてゐることをお話ししようと思ふのであるが、私の話しは大體これを三段に分つことが出来る。即ち

なり。

第一、漢文教育が如何に論ぜられてゐるか。

第二、その議論に對する自己の意見。

第三、それ等に關する資料。

がそれである。然し第三の資料に就いては未だ材料が十分に集つて居らず、第二の私見に就いては可成りの時間を要する故、今日は第一の現今に於ける漢文教育に辭する議論を紹介しようと思ふ。

隨つて今日の話は極めて常識的で、既に各處で論ぜられて居る事を項目を分けて羅列するに過ぎ

一體漢文教育の問題は、専門學校大學等に於いては別箇のものであるから之を省き、主として中等學校に於ける狀況を取扱ふものである。昨今は此の問題も稍、靜まつてゐる様であるが、何時また勃發するか分らぬ。擬此の問題は又幾つかに分けて考へられるが、私は第一、漢字。第二、漢文第三、辭書。第四、教科書。第五、教授上。の五問題に分たうと思ふ。而して今各、の問題に關する議論を舉げれば、

一、漢字の問題

イ、漢字廢止の問題